

平成 24 年 2 月 7 日

各 位

会 社 名 曙ブレーキ工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 信元 久隆
(コード番号 7238 東証第一部)
問合せ先 経理部長 篠田 達也
(TEL. 048-560-1501)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 23 年 6 月 14 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）の連結業績予想について、下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 24 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

(単位:百万円)

| | 売 上 高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|------------------------------|---------|--------|--------|--------|-----------------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 208,000 | 7,000 | 5,500 | 2,000 | 15 円 10 銭 |
| 今 回 発 表 予 想 (B) | 209,000 | 3,500 | 1,800 | △3,000 | △22 円 63 銭 |
| 増 減 額 (B-A) | +1,000 | △3,500 | △3,700 | △5,000 | — |
| 増 減 率 (%) | +0.5 | △50.0 | △67.3 | — | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成 23 年 3 月期) | 216,574 | 11,392 | 9,738 | 5,265 | 39 円 75 銭 |

(修正の理由)

以下の如く、製品構成の変動に伴う限界利益率の悪化、震災復旧に関連するエキストラコストの増加、グローバル体制構築費用の増加に加えて、日本国内の繰延税金資産の取崩及び北米での繰延税金資産を一部計上できないことにより通期業績見通しが大きく悪化しました。今回の当期純利益の赤字は一過性であり、来期に向けては、固定費の削減、次世代設備の導入、材料調達コストの低減等による限界利益率の改善、北米での収益改善諸施策(注)等を軸に、収益構造の改革を実践することにより、収益の大幅な改善を計画しております。

①日本

売上高はタイの洪水や急激な円高による影響はあるものの、第 2 四半期以降完成車メーカーから堅調な受注があったため当初予想より増加する見込みです。

一方営業利益は、①製品構成の変動に伴う限界利益率の悪化（利益率の高い補修品ビジネスの構成比が、当初予想より低下したことによる利益の減少）②自家発電費用、震災復旧の為人件費増加、震災及び原発事故によるエキストラコストの発生、③今後のグローバル体制構築費用増（グローバル経営の人財強化、グローバルロジスティクス改革費用、新興国市場対策に関する調査費用）等により、当初予想より減益となる見込みです。

②北米

売上高は震災の影響もあり、日系完成車メーカーの生産が落ち込んだため、当初予想より減少する見込みです。営業利益は、①ロバートボッシュ L.L.C から継承した事業の一部不採算製品の受注が想定以上に増加したこと、②鉄スクラップの市況高騰による鋳物とベアリングを中心とした原材料コストの高騰、③運搬・物流費の増加等により、当初予想より減少する見込みです。

③欧州

売上高は当初予想より増加する見込みですが、営業利益は原材料コストの高騰及び来期以降の受注量の増加に対応するための体制構築費用増等により減益の見込みです。

④アジア（中国・タイ・インドネシア）

売上高はアジア事業も円高による減収影響を大きく受けておりますが、中国を中心に日系完成車メーカーからの受注が増加する見込みで、全体では当初予想を上回る見込みです。営業利益については、

中国：当初予想のとおり7億円の見込みです。

タイ：洪水影響は多少ありましたが、当初予想のとおり2億円の見込みです。

インドネシア：タイ洪水によるサプライチェーンの混乱により生産に支障をきたし、当初予想に対して3億円減益の見込みです。

上述の営業利益の減少に加えて

- ① 北米：大幅赤字を計上しているクラークスビル工場（BOSCHより移管）の固定資産の減損損失を約16億円。
- ② 日本：法人税率引き下げに関する税制改正により、繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額を約7億円計上。
- ③ 北米：繰延税金資産を一部計上できないことの影響。

以上により、当期純損失は30億円になる見込みです。

（注）北米の来期の収益改善諸施策

来期の営業損失の改善について、現時点では以下の改善項目を実行し年間約48億円収支を改善する目処が立ったため、当期比損失が大幅に減少、黒字化を目指します。

不採算ビジネス対象モデルの生産終了により約11億円、原材料コストアップの販売価格への転嫁約11億円、資材調達価格の改善（客先支給に変更、鋳物の値下げ）約10億円、生産性向上・ロジスティックス改善等の合理化約8億円、新規製品受注増により約6億円、その他約2億円 合計約48億円。

（USドル為替レートは77円で算出）

また、現行モデルの生産終了に伴う販売の減少については、新規受注によりカバーする目処がっております。加えて新規受注分については、採算性の向上に向けた価格改定が織り込み済みです。

なお、次期業績予想については現在策定中であり、まとめ次第、適時開示いたします。

以 上

(参考1) 地域別業績予想

(単位：百万円)

| | | 前回発表予想 | 今回発表予想 | 増減 | 増減率(%) |
|------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 売上高 | 日本 | 93,500 | 95,300 | +1,800 | +1.9 |
| | 北米 | 98,000 | 96,200 | △1,800 | △1.8 |
| | 欧州 | 5,000 | 5,200 | +200 | +4.0 |
| | 中国 | 4,800 | 5,300 | +500 | +10.4 |
| | タイ | 3,100 | 2,900 | △200 | △6.5 |
| | インドネシア | 14,000 | 14,000 | — | — |
| | 連結消去 | △10,400 | △9,900 | +500 | — |
| | 連結 | 208,000 | 209,000 | +1,000 | +0.5 |
| 営業利益 | 日本 | 7,200 | 5,400 | △1,800 | △25.0 |
| | 北米 | △4,000 | △5,300 | △1,300 | — |
| | 欧州 | 0 | △200 | △200 | — |
| | 中国 | 700 | 700 | — | — |
| | タイ | 200 | 200 | — | — |
| | インドネシア | 2,800 | 2,500 | △300 | △10.7 |
| | 連結消去 | 100 | 200 | +100 | +100.0 |
| | 連結 | 7,000 | 3,500 | △3,500 | △50.0 |

(参考2) 前提為替レート

| | USD | EUR | CNY | THB | IDR |
|------|--------|---------|--------|-------|----------|
| 前回予想 | 80.0 円 | 110.0 円 | 12.2 円 | 2.7 円 | 0.0092 円 |
| 今回予想 | 79.6 円 | 108.0 円 | 12.4 円 | 2.6 円 | 0.0092 円 |

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。